

くら楽読 くら楽書 第17号

平成24年11月発行

精華町立図書館

所在地：〒619-0285 京都府相楽郡精華町大字南稻八妻小字北尻70番地
電話：0774-95-1911 FAX：0774-95-3976
HP：<http://library.town.seika.kyoto.jp>

おすすめの本

『正岡子規』

ドナルド・キーン 新潮社 / 911.3

日本人よりも日本文学の神髄を知ると言われる著者。不思議なことに彼が解説した文学はどれもこれも読みたくなるものばかり。選ぶセンスが良いのか、解説が巧みなのか。そんなドナルド・キーンの「子規論」です。

「柿くへば鐘がなるなり法隆寺」この有名な句は、子規が28歳、病気が小康状態の時に奈良に遊んで詠んだ句です。明治という激動の時代に文芸と野球に情熱を燃やし35歳という若さで逝った子規。揺れ動く平成の現在、今年日本に帰化したアメリカ生まれの著者が上梓した本著には何か意義深いものを感じずにはいられません。

『きなりの雲』

石田千 講談社 / F位

空気が肌寒くなってくると、ニットの風合いが恋しくなります。そんな時読むのにぴったりののがこの本です。手芸店の編み物教室の講師さみ子さんは、40歳を過ぎてからの失恋に心身消耗し、その痛手からようやく立ち直りかけたところ。アパートの部屋で育てているアボカドに心癒される日々を送っています。さみ子さんと周りの人たちで編み上げる人間模様は素朴で温かく、編み物教室に通う人達やアパートの住人達の個性的な糸も上手く配置されています。羊毛そのままの色の生成りの毛糸で紡ぐ、大人の女性の回復物語です。

『ミッフィーとフェルメールさん』

国井美果 美術出版社 / 児童 723

絵本で有名なミッフィーが誘う、フェルメールの世界へようこそ！
「真珠の耳飾りの少女」や「牛乳を注ぐ女」など、フェルメールの絵を見たミッフィーの想像は広がります。オランダが生んだ画家フェルメールとブル一ナ、両極にあるような絵柄ですが、日常を描く優しい目、絵が見る人を癒す力を持つというところは共通しています。大人も子供も楽しめる一冊です。